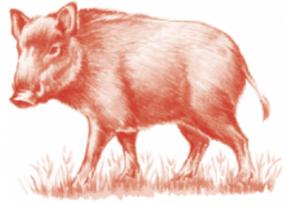


雲南病院だより



新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、ご家族お揃いで新年をお迎えになられたことと、お慶び申し上げます。

まず、昨年3月には念願の新本館棟の開院を迎えることができました。開院して9カ月経ちましたが、「良くなったね」と概ね評価をいただいております。また、11月には従来の東棟の改修が終わり、医局、事務所の入る管理棟が完成、合わせて、東側に48台の駐車場を完備し、夜間・救急のご利用者の皆様には便利になりました。

この後は西棟を解体し駐車場などの整備を図り、本年9月のグラウンドオープンに向け今しばらく工事が続きますが、引き続きご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、8年前雲南市立病院の初代病院事業管理者就任にあたり、ケアミックスの病院形態の維持、マンパワーの確保、経営基盤の強化、そして新本館棟建設の早期実現を目標に掲げました。職員一同



病院事業管理者 松井 譲

が力強く支えてくれたことはもとより、住民の皆様、議会、行政の皆様のご理解と絶大なご支援もあり、ほぼ目標を達成できたことに事業管理者として心から感謝申し上げます。ただ一方で慢心することなく立派な建物に中身もよめざって職員一同住民の皆様のご期待にこたえるよう体制を整えながら、雲南地域の中核病院としての役割が果せるよう努力してまいり所存であります。

なお、私事になりますが、本年3月末をもって退任することとなりました。医師として、通算では34年間、人生の半分を雲南病院で過ごさせていただき、医師としてのみならず、一人の人間としてこの地域の皆様にて育てられ、成長させていただいたと考えています。重ねて御礼を申し上げます。

最後に、本年が皆様にとりまして良い年となりますようご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



院長 大谷 順

新年明けましておめでとうございます。本年が皆様にとり良い年となりますようご祈念申し上げます。

昨年は念願叶って新本館棟竣工を迎えましたが、オープン以来多くの皆様にご利用いただき、順調な滑り出しにひとまず胸を撫でおろしているところでございます。

しかしながら、不慣れな点多く市民の皆様にはご迷惑をお掛けしたのではないかと案じており、今後、秋に控えておりますグランドオープンも踏まえて、より快適な環境で医療を受けていただけるよう設備だけでなく、接遇等ソフト面も改善するよう努力いたします。

さて、私の好きな言葉に「不易流行」がございます。稀代の俳人松尾芭蕉の説いた理念で、俳諧には本質的に変わらない「不易」と、その時々々の新しいもの「流行」の二つがあり、その二つが融合してはじめて永遠に続く「不易」が得られる。という風に私は勝手に解釈していますが、当院にとっての「不易」は、創立以来変わらず地域住民の皆様

の命と健康を守ることで、「一方「流行」は、目まぐるしく変化する社会情勢、医療環境を乗り切るべくさまざまな試みにチャレンジしていくことである」と考えています。

昨年、総理に「チャレンジしやすい町」とのお墨付きをいただいた雲南市の基幹病院として面目躍如たるべく、職員一同が知恵を絞ってチャレンジしてまいります。一例を挙げますと、昨今話題の地域包括ケアの一翼を担うべく、これまでのように院内に留まっているだけでなく、活動の場を院外に広げて、さまざまな形で圏域住民の皆様の健康な生活の底支えに役立つ事業を展開してまいります。

嬉しいことに新本館棟の効果か、チャレンジにふさわしい、若く、元気のよい職員も増えてまいりました。新しく快適な環境の下で、当院にとっての「不易流行」を極めていく所存でございますので、本年も引き続きご理解とご厚情を賜りますようお願いを申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

ブルーライトアップイベント

11月14日は「世界糖尿病デー」です。インスリンの発見者フレデリック・バンティング博士の誕生日であり、世界保健機構（WHO）が定め

ました。

当日は世界各地でブルーライトアップの行事が行われており、当院も今年3月に完成した新本館棟を、大谷順院長と雲南地区ブルーライト実行委員会委員長の服部修三特別顧問の点灯の合図でライトアップし、最後に職員で世界糖尿病デーのシンボルマークのブルーサークルをつくりました。



そして11月18日（日）には、島根県糖尿病デー・雲南ブルーライトアップイベントを加茂文化ホールラメールで開催しました。

ご自身が1型糖尿病で元工アロビック競技日本代表の大村詠一さんによる記念講演と、医療者を中心に構成された「DNAフィルハーモニック」によるオーケストラ演奏会の2部構成とし、来場者500人を迎える盛大なイベントになりました。

講演では、8歳で1型糖尿病を発症されて以降インスリン注射を打ちながらの治療と選手生活について、成長過程における葛藤や苦勞を交えてお話されました。途中では、気軽にできる体操と一緒にやりながら、運動療法も楽しく教えていただきました。現在は講演を通じた啓発活動のほか、1型糖尿病の根治をめざした研究にも力を注いでいらつしやいます。一病息災、糖尿病をきちんと理解

することで何にでも挑戦できる。大村さんのお話で、どんなことにも向かっていける勇気をいただいたように思っています。

ブース展示会場



※プロジェクションマッピングとは、映画館のような専用のスクリーンではなく、建築物や家具など立体物の表面にプロジェクターで映像を投影する手法。

2018年 雲南市中学生『夢』発見ウィーク

10月10日(水)から12日(金)の3日間、中学生のキャリア教育プログラムとして実施されている『夢』発見ウィークを行い、大東、三刀屋、掛合、木次の4校の中学生10人が参加しました。

初日は、新しくなる管理棟の見学を行い、普段入ることのないエネルギー棟や免震装置がある病院の地下の見学をし、午後からは2つのグループに分かれて、健康管理センターとリハビリテーション科で現場体験を行いました。



ボランティアさんと車いすの点検

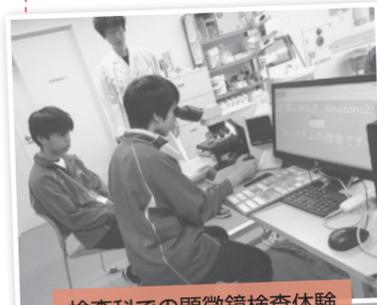
2日目は薬剤科と栄養管理科、放射線科と検査科の体験を行い、3日目は病棟へ行き看護体験をしてもらい、午後からは病院ボランティア「てごっ人」の方の話の聞き、一緒にボランティア美化活動を行いました。

初日では、やや緊張して戸惑いもありましたが、2日目にはだいぶ慣れてきて、最終日には患者さんやスタッフの受け答えを上手くするなど、とても楽しそうに体験を行っていました。

「実際の患者さんの血圧を測ったり、手足を洗ったりと普段できないような

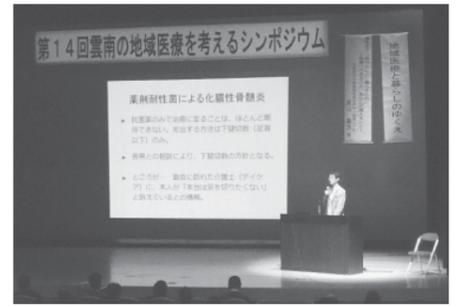
体験をすることができ、印象に残りました」、「患者さんと一緒にリハビリをしたり、お話をしたりするのは患者さんと自分が一体となっているような気がしてとても良い経験になりました」などといった感想を述べていました。

今回の3日間の体験学習を通して、医療に興味を持ってもらえたと思います。中学生の皆さんの将来の夢を考える上で、少しでも役に立てれば幸いです。



検査科での顕微鏡検査体験

第14回雲南地域医療を考えるシンポジウム開催報告



11月3日(土)、地域医療を考える会の主催により、木次経済文化会館チエリヴァホールでシンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、これからの地域医療を守っていくために、自分たちに何ができるか考え、討論することを目的に毎年開催されており、今回250人以上の来場がありました。

診察した沖繩での実体験をもとに講演されました。システムに依存するのではなく、カルチャー(地域文化)を大切にしたい地域との関わり方や話し合いの大切さ、自分の生き方について考えることなどを分かりやすく述べられました。

次の取組発表では、当院から地域ケア部長太田龍一医師が多職種連携をテーマに病院での活動について発表しました。また、病院

の地域医療部の立場や行政の立場、医学生の方からとさまざまな立場から地域医療の取り組みについて発表がありました。



▲パネルディスカッション

いく討論が行われ、学生からも地域医療についてのしっかりとした考えを聞くことができ、頼もしく感じました。今回のシンポジウムでは、地域医療をより身近なものとして考えることができたのではないかと思います。今後も地域の病院として、住民が自分らしく暮らせるよう考え、取り組んでいきたいと思えます。

島根の地域医療シンポジウム in うんなん



11月23日(金)、大東地域交流センターでシンポジウムが開催され、約130人の参加がありました。このシンポジウムは、がんばれ雲南病院市民の会、病院ボランティアの会が中心となり、雲南圏域の医療を守り育てる住民団体が実行委員会を結成し開催されました。

その後、グループに分かれ、4つのテーマについてグループワークを行いました。①住民主体の地域活動を広げていくためには? ②住民が自分の最期について事前に決めるには? ③住民が住み慣れた家で長く過ごすためには? ④住民が医療とうまく付き合うためには? 各グループで、課題と問題点をあげ、これからの解決策や住民ができることを話し合い、最後に各グループの意見を発表し全員で共有しました。多くの意見が出され、活発な意見交換となりました。



▲グループ発表の様子

院内サロンふれ愛

お気軽にお越しください。

1. 2. 3月の開催日(毎月第2・第4金曜日)

1月11日(金)・25日(金)

2月 8日(金)・22日(金)

3月 8日(金)・22日(金)

時間: 13時30分~15時30分

場所: 市立病院 中央棟2階 検診・人間ドック室

問い合わせ:

市立病院 健康管理センター ☎0854-47-7510

院内サロンとは: 病気についての不安を抱える患者さん・ご家族の交流の場であり情報交換・学習の場です。参加費は必要ありません。どなたでも自由に参加できるサロンです。